

令和7年11月7日(金) 甲奴小学校 体育館20名 (男子11名 女子9名)

単元名

フレールボール！心をつないで打ち返せ！～アタック&ディフェンス～

1 授業づくりの考え方

単元の捉え方

ネット型は、個人やチームによる攻撃と守備によって簡易化されたゲームを行い、集団対集団などの攻防によって競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。フレールボールは、バレーボールよりボール操作が易しいのに加え、攻防の入り乱れがなく、役割を明確にして作戦の実効性を高めることのできる競技である。また、ボールをワンバウンドさせることでレシーブ・トス・アタックの3段攻撃を実現しやすくラリーを楽しむことができる特徴がある。さらにルールやコートなど児童の実態に合わせ設定しやすいネット型競技である。これらのことから本単元は、ネット型競技の連係プレー、ラリーの楽しさを味わうことができ、達成感を味わうことができると考える。

児童の実態

本学級の児童は、体育科の授業で体を動かすことを好む児童が95%、運動が苦手と答える児童が25%いる。普段の学習からは、教え合ったり児童同士で譲ったりするなど、相手意識をもち行動する児童が多い。しかし男女での運動能力の差があり、ボール操作がうまくできないと感じている女子児童が44%いる。また、白熱すると友達の考えを受け入れることが難しい児童も見られる。チームの作戦やアドバイスを活かしながら全体が高まっていく単元構成づくりが必要である。

指導の工夫

① ゴール・問いのある授業づくり

- ・「フレールボールを通して、全員がレベルアップすることで6年生の保護者チームに勝利しよう。」という全員参加型のファイナルタスクを設定することで、対児童から対保護者になる。他のチームが勝利してもクラスとしてレベルアップすることにつなげるようにする。
- ・フレールボールの役割を明確にすることで、連係プレーの心地よさや達成感を味わうことができるようにする。

② 効果的な場やルール・教具等の工夫

- ・ネットの高さを100cmに設定することで相手コートに返しやすくすることができる。
- ・ルールの簡易化として②のトスはキャッチすることができるようにする。
- ・触球と触球の間にワンバウンドさせることで、作戦に基づいた位置取りやボールの落下点を把握し、ボールを操作しやすい位置に移動したりするなど、課題を追求しやすくしている。
- ・ICTの活用をすることでチームの課題や試合で勝つためには何が必要か明確にすることができる。

③ 認め高め合う集団づくり

- ・毎時間の授業で1枚ものの振り返りシートを活用することで単元の最初と比べて自分や友達がどのように変容したかを共有しながら、友達同士で関わられるようにする。
- ・授業の導入で前時の課題を提示することで自分やチームの映像を見ながら友達と対話して本時のプレーに活かせるようにする。

2 単元構想図（全8時間）

最適解・納得解が更新され続ける問い（本質的な問い）
ネット型ゲームで楽しむためには？

単元を貫く問い
大人（保護者）チームに勝つためには？

単元の目標

知識及び技能	・ネット型（プレルボール）の行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	・ネット型（プレルボール）に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① プレルボールの行い方を理解して、有効な攻撃について言ったり書いたりしている。 ② ボール操作とボールを持たないときの動きによって、チームの連係プレーによる簡易化されたゲームをすることができる。	① チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。 ② 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	① ゲームに積極的に取り組もうとしている。 ② ルールを守り助け合って運動しようとしている。 ③ 勝敗を受け入れようとしている。 ④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤ 場や用具の安全に気を付けている。



時数	本時のめあて	授業の概要	めざす児童イメージ	評価の重点（方法）		
				知・技	思・判・表	主体
ファイナルタスク チーム全員がレベルアップして大人（保護者）チームに勝利しよう！						
1	アタックプレルボールをやってみよう。 オリエンテーション	プレルボールの行い方やルールを理解する。 試合をする。	プレルボールのルールを理解し、試合を通して課題を発見することができる。			⑤ （観察）
2	強いボールを相手コートに返すには？	前時の振り返りからチームの課題を共有する。 ネットに近い場所から攻撃するためには何が必要か。（一段階）	チームとして得点するためにはネット付近からのアタックが効果的だと考えることができる。			② （カード・観察）
3・4	得点をとるためには？ アタックを得点につなげる。（アタック）	レシーブ・トス・アタックの役割について交流する。 強いアタックを打つためにどこからセットすればよいのか。（一段階）	アタックゾーンからの攻撃はできるが強いアタックが打てない。 3人目は意図的ではなく偶発的にアタックを打つことができる。	① （観察）		③ （観察）
5	よりよい攻撃をするためには、どのような守備が必要か。（ディフェンス） 【本時】	守備の立ち位置を攻撃につなげるためにはどうすればよいかゲームを通して共有する。（二段階）	トスを上げる人が素早く前衛に移動してアタックにつなげている。2番目が固定され強いアタックが打てる。		② （カード・観察）	

6・7	連携して得点するためには？（アタック）	これまでの学びを習得するための技術向上及び作戦。保護者に勝つためには。（三段階）	これまでの課題や作戦を活かし、チームの得点につなげてゲームを行うことができる。		① （カード・観察）	④ （観察）
8	甲奴カップ 保護者と試合をしよう。	本単元のゴール 児童 v s クラスの保護者	これまでの課題や作戦を活かし、チームの得点につなげてゲームを行うことができる。	② （観察）		

※愛好的態度（主①）の評価は、単元後に行う。（カード）

3 本時の展開

(1) 本時の目標

失点を防ぐためには、どの場所でボールを受ければ得点を防ぐことができるか自分の考えを他者に伝えることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。（思考・判断・表現②）

(3) 準備物

- ・簡易式ネット・ビーチバレーボール8個・作戦ボード4枚・ホワイトボード・電子黒板・タブレット
- ・ワークシート・学習の足跡やまとめ等の掲示物

(4) 展開 【第5時／8時間】

	学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への手立て	評価☆ [評価方法]
		は、児童の気づき	
ファイナルタスク			
チーム全員がレベルアップして大人（保護者）チームに勝利しよう！			
導 入	(1) プレルボール体操 ・音楽に合わせてプレルボールの動きに合った体操を行う。 (2) ドリルゲーム ・①、②、③の連続ラリーを行う。 (3) 得点につながりやすい攻撃を確認する。 ○アタックを打つ場所 ○返球する場所 ○返すボールの強弱 前回の反省・課題の確認	◆ラリーが難しい児童はキャッチして相手にパスするように声をかける。 ◇前時の内容を動画で見せ、失点シーンを振り返る。	
		・どこでアタックを受けたら、攻撃につなげることができるかな。 ・今までの試合、どの場所で失点が多いか知りたいな。 ・ボールをもっていないときの動きが必要かな？ ・バレー日本代表の試合が見たいな。 ・アタックを打たれたらほとんど失点している。 ・失点を減らせばゲームに勝てると思う。	
	本時のめあて よりよい攻撃をするためには、どのような守備が必要か。		
展	(4) タスクゲームを行ったり作戦をたてたりする。	◇ICT を活用して、動きやスペースについて気付かせる。	

開	<p>(5) ゲームスタート ①ゲーム(6分) 作戦タイム ②ゲーム(6分) (6) 全体交流</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・強いアタックは近くだと防げない。 ・2番目がネット近くに移動すると攻撃がうまくできる。 </div> <p>(7) 用具の片付け</p>	<p>◆アタックやディフェンスの成功や工夫などについてふり返りができよう声をかける。 ◇ゲームに出場しない児童 ①審判をする。 ②同じチームに指示やアドバイスができる。</p>	<p>☆チームの課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(②思考力、判断力) 【カード】 【観察】</p>
ま と め	<p>(8) 振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><u>本時のまとめ</u> 相手のアタックに合わせて後ろに下がって守れば失点を防ぐことができ、攻撃につなげることができる。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・守備がうまくできるようになった。 ・守備が下がることで、前のスペースが空いた気がする。 ・次回はそのスペースを狙って得点を狙う。 ・アタックを打たれた時、②のトスは移動すると攻撃につながる。 ・前回の試合と比べると、どのチームも得点が減った。 </div>		

5 活用するワークシートや活動のルール等について

☆プレルボールのルール

○用具及び場の設定

- ・ソフトバレーボール
- ・コート6m×15m ネットの高さ100cm

○人数と時間

- ・1チーム5人(コートプレーヤー3人) 6分間で点数を多く取ったチームの勝ちとなる
- ・チームはローテーション、ゲームに参加していない児童は審判兼チームの声掛け

○ゲームの進め方と得点

- ・3回の触球で相手コートに返す。その際、1人が複数回ボールに触れてはならない
- ・じゃんけんでボールを選んだチームが、サーブを行う
- ・サーブは、コート内からの投げ入れとする。(両手で下から)

○ルールと反則

- ・肩から指先まで以外の場所でボールを打ってはいけない
- ・アタックがノーバウンドでコートの外へ出たら相手側の得点
- ・打ち方は片手もしくは両手
- ・同じ人が2回続けて打てない
- ・一人一回ボールに触れる
- ・2番目のトスは、ボールをキャッチしてよい